

学校名： 下目黒小学校		作成年月日：H.11.12.04	調査日：H.16.7/13.7/23
施設タイプ		花壇を 2 面撤去して池と水田を作成（シート型）	
環境概況	植 物	<p>< 池 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 池全体でスイレン、コガマの抑制を行い、適度な水面と水深が確保されている。 <p>< 田んぼ ></p> <ul style="list-style-type: none"> オモダカ、コナギが散在し、周囲にはアメリカセンダングサが多く見られる。 	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> メダカ及びその稚魚が多く、ギンヤンマのヤゴの脱け殻を確認した。（池） オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、アオスジアゲハ、キアゲハ、シジミチョウが飛来した。 	
	水 質	<p>< 池 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 透明度があり、良好である。担当の学年が随時給水を行っている。 <p>< 田んぼ ></p> <ul style="list-style-type: none"> 田んぼでも、担当の学年が随時給水を行っている。 	
	周辺環境	<p>< 池 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺の草本類が繁茂しはじめ、適度な環境が成立している。 北側の樹木が伸長し、風通しの悪化や落ち葉の増加が懸念される。 	
	土 壌	<p>< 池 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師と児童による泥上げ作業により、水深の確保や周囲に土手をつくり、草本の生育環境が維持されている。 池全体の水深が確保され、深い部分では 30cm 以上の水深が確保された。 <p>< 田んぼ ></p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲に土が補給され、畦が明確になった。 	
活動状況	管理体制	<ul style="list-style-type: none"> 担当学年の 3 年生の児童が主に管理及び観察を行っているとともに、授業や普段の観察場所として利用されている。給水は担当児童が当番制で行っている。水田は 5 年生が担当している。 	
	管理状況	<ul style="list-style-type: none"> 管理担当児童が明確であることから適切な管理状況になっている。随時、観察が行われ、作業が行われているが、児童で不十分な部分は教師が補っている。 	
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 担当児童により定期的な観察が行われており、他の児童の興味も高く自由に観察している。 	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> 今後も担当学年を主体として、水草などの育成管理を行う予定となっている。 	

作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	参加形態
H. 11.12.04	池の作成	5 . 6 年生、PTA
12.01.29	田んぼの作成	5 . 6 年生
05.	田植え	
10.	研究発表	教師
13.06.20	ピオトープ活用のための勉強会	教師
06.29	草取り	4 年生
09. ~	動植物の解説プレートづくり	4 年生
14.07.15	草取り	4 年生
07.23	草取り、教師勉強会	有志
09.12	教師勉強会(冬期の活用方法について)	教師
12.12	落ち葉シクの切り返しと、落ち葉を利用した花壇づくり	3 年生
年間	総合的な学習の時間で取り組んだ	3 年生
15.05 ~ .07	草取りと泥上げ、樹木の観察 ピオトープの生きものを探そう	教師 3 年生
16.05 ~	総合の時間を活用し、年間を通した観察・整備活動を行った。	3 年生

草取り、泥上げ作業後（平成15年6月）



水深を確保するために、池内の泥を岸边にあげて、土手状にした。また、繁茂したスイレンを除去して水面を確保した。



水田では、前年同様にオモダカ、コナギが確認されたが、アメリカセンダングサなどの帰化種も見られている。

作業後1ヶ月（平成15年7月）



土手部分には草本類も生育し始め水辺環境が新たにつくられている。ただし、スイレン及びオオカナダモはすでに抑制する必要がある。

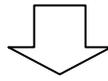
草取り、泥上げ作業後（平成16年7月上旬）



水面を確保するためコガマ、スイレンの約8割を抜き取った。作業は児童が行った。児童によるトンボの採取・観察中。



稲の育成を促進するため、コナギ、オモダカは除草の対象となっている。



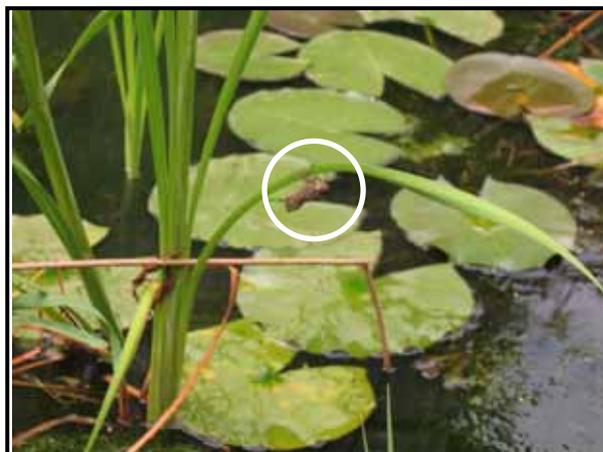
作業一ヶ月後後（平成16年7月下旬）



水際のみぞソバ、セリが回復し、コガマ、スイレンも広がってきた。



稲の背が高くなり、コナギ、オモダカが共存する環境として維持されている。

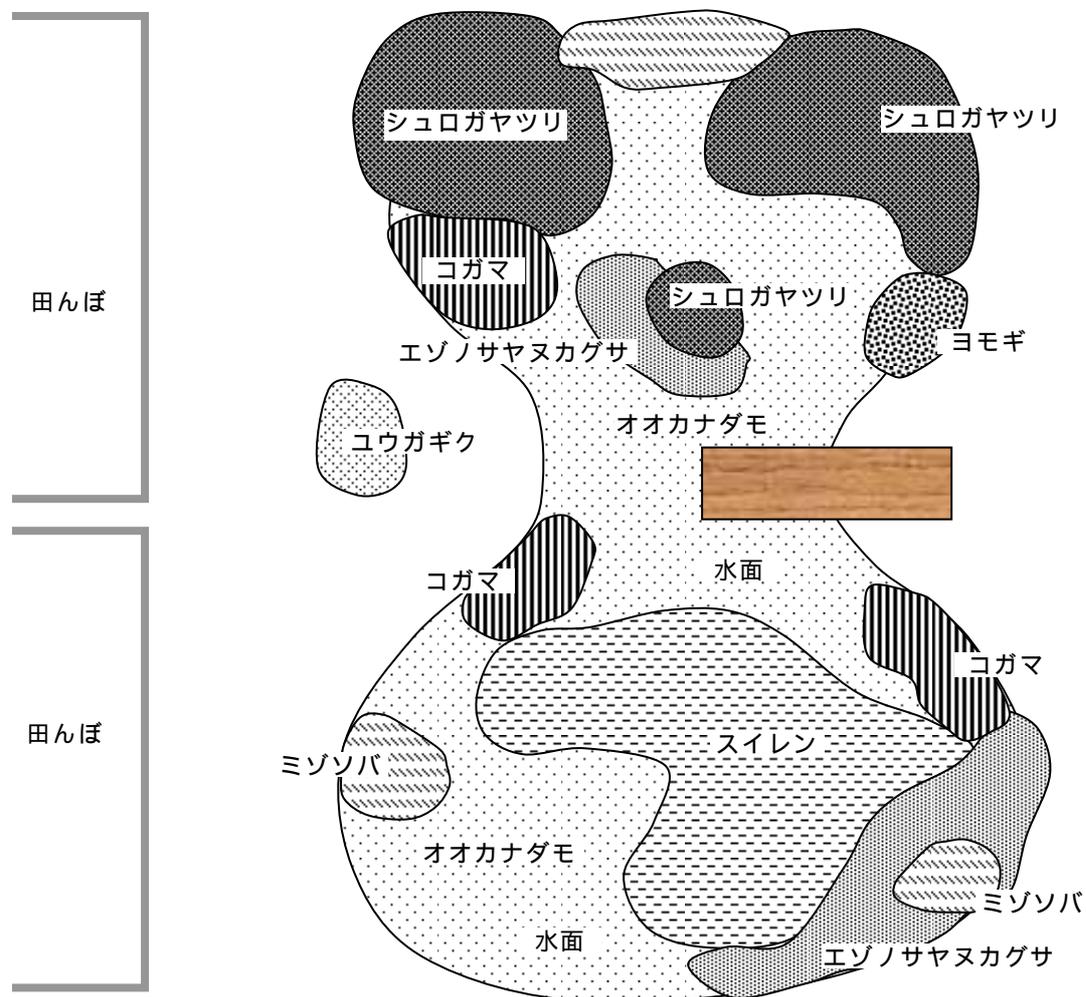
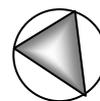


ギンヤンマのヤゴの抜け殻が多く見られた。



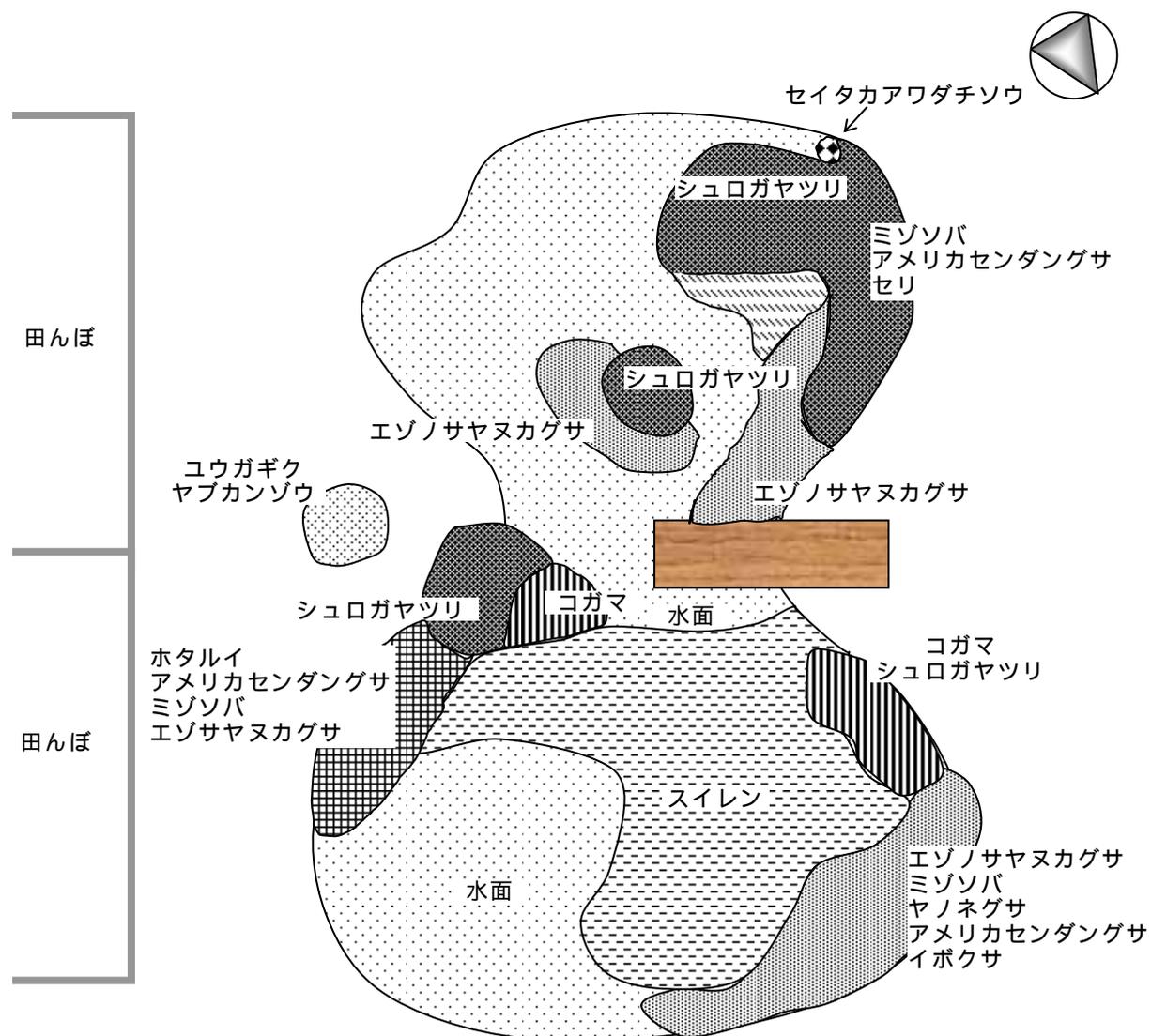
ショウジョウトンボやオオシオカラトンボが飛来していた。

下目黒小学校
<平成13年度>

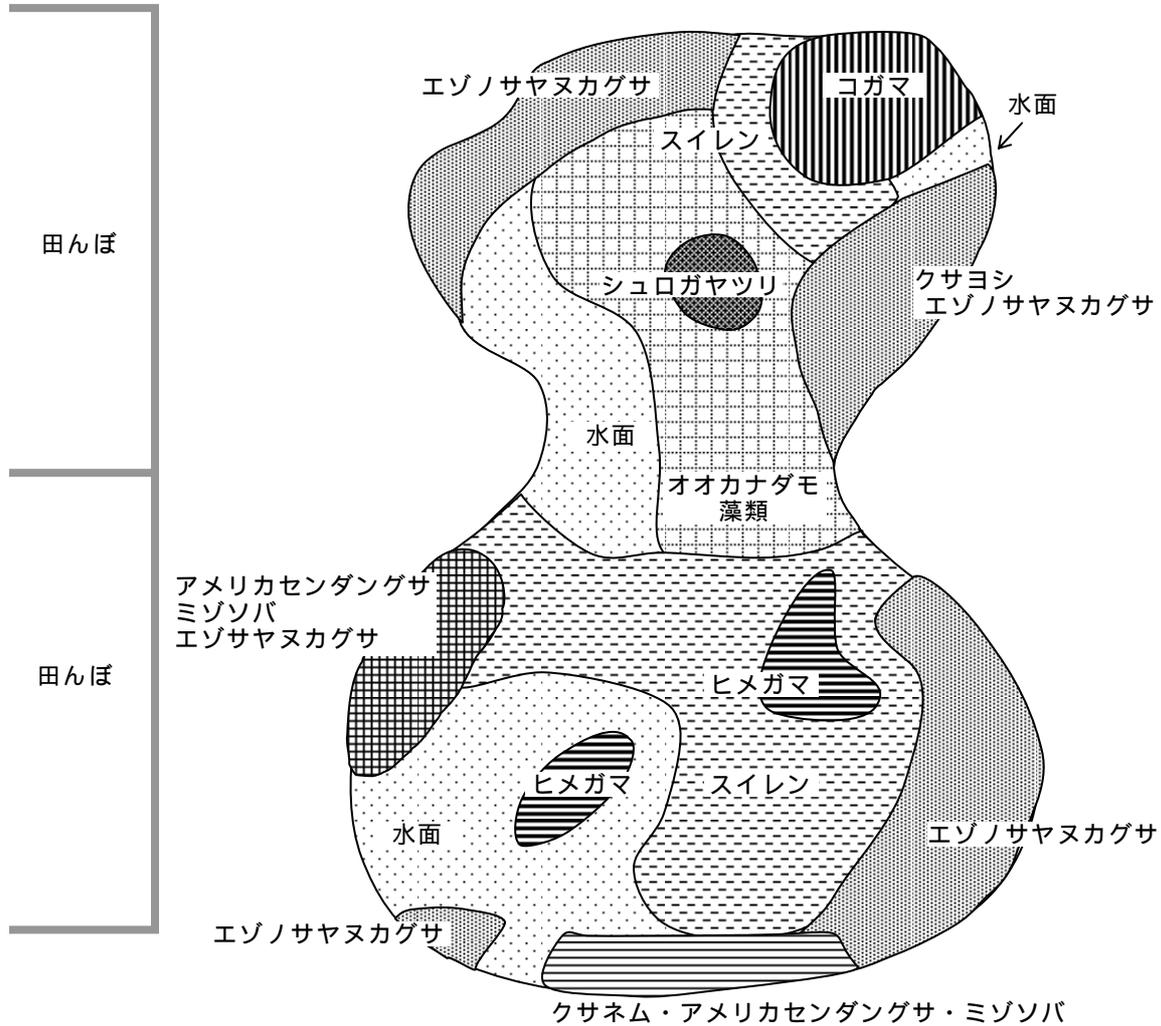
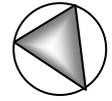


調査時は、植物の整理が行われた後であるため、適当な植物密度となっていた。しかし、多くの割合を占めるシュロガヤツリは、当面の植栽として行った種であるため、本来の多様な生きもの環境をつくるためには、今後、在来種であるコガマやセリなどの種に置き換える管理が必要である。

<平成14年度>



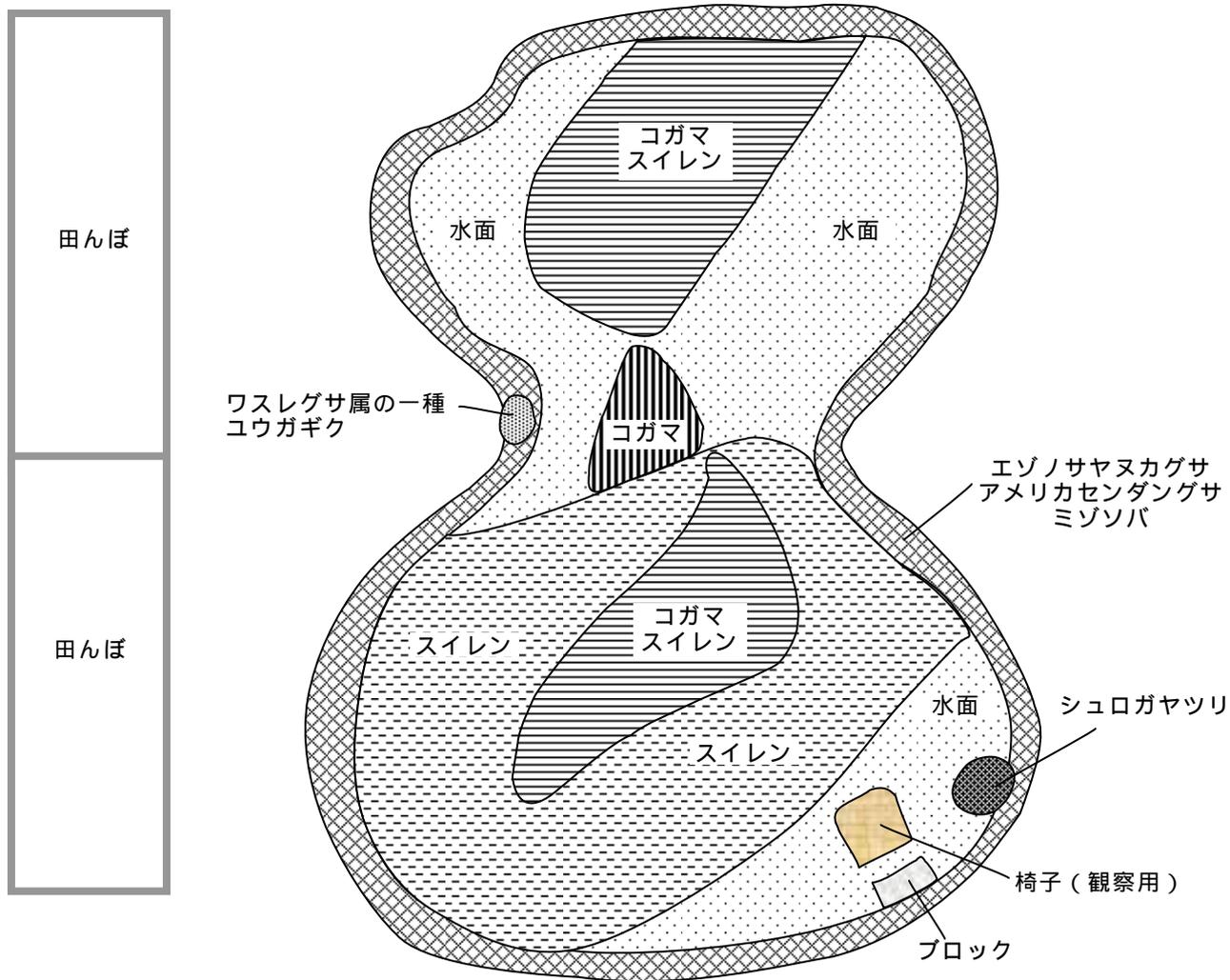
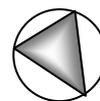
池の形がひょうたん状になっていたり、深さに変化が大きい構造をもっていることから、植物の生育状況が複雑で多くの草本が認められた。多様な環境を創出するため、多くの割合を占めるシュロガヤツリは、今後行う予定の管理作業において全て除去し、在来種を中心とした植物環境への転換を目指す必要がある。



昨年度の草本の整理作業で、シュロガヤツリが除去されたことにより、セリ、ミゾソバなど草丈の低い草本類の生育が広がり、水辺の環境の多様性が増している。

児童参加の管理作業が基本となっているが、教師による補助作業が必要な場合がでていいる。今後は、そのような場合でも、できるだけ児童が見学できるなど、管理作業を実際に見て理解できる機会を提供することが重要と考えられる。

<平成16年度>



セリ、ミゾソバなど草丈の低い草本類の生育が広がっており、水辺の環境の多様性が保たれて、水中の生き物も観察しやすい状態となっている。広がりの早いスイレンは水面確保のため、随時抑制する作業が必要である。

